

令和 5 年度第 1 回名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会 会議録

1 日時 令和 6 年 2 月 28 日（水）午前 10 時～午前 11 時 50 分

2 場所 名古屋市公館 4 階 大会議室

3 出席者 審議会委員 土屋 武志 会長
南部 初世 委員
小松 尚 委員
杉浦 尚久 委員
中野 幸夫 委員
尾関 利昌 委員
梶野 渚 委員
柴山 由美子 委員
児高 晋也 委員
事務局 教育環境整備課長はじめ 7 名

4 傍聴者数 6 名

5 議題

- ・ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画の推進について（公開）
- ・ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画推進の課題について（公開）

6 議事

No. 1

発言者	発 言
事務局	みなさんおはようございます。お待たせいたしました。定刻 10 時になりましたので、ただいまより、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会を開催いたします。私は進行役を務めさせていただきます名古屋市教育委員会教育環境整備課長の酒井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 本日は、11 名中 9 名の方にご出席をいただいております。本審議会条例第 7 条第 2 項により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。 初めに 2 点ご案内を申し上げます。 1 点目は、災害が起こった時の対応についてです。万一災害が起きた場合は、入室された出入口から職員の指示に従いまして、避難していただきますようお願いいたします。 2 点目は会議の公開についてです。本審議会は、名古屋市情報公開条

発言者	発 言
	例第 36 条の規定により、公開が原則となっております。そのため非公開の情報を審議する場合を除きまして、公開とさせていただくことをご了承いただきたく存じます。 なお、本日の傍聴者は 6 名でございます。 傍聴者の方に申し上げます。この審議会の傍聴要綱第 4 条により、傍聴者は静粛をお願いいたします。会議場における言論に対して拍手その他の手法によって公然と可否を表明しないことや、会場内では、写真、ビデオなどの撮影録音等は行わないように遵守していただきますようお願いいたします。円滑な議事運営にご協力ください。 それでは会議を始めさせていただきます。 はじめに、子どもいきいき学校づくり担当主幹より一言ごあいさつを申し上げます。
担当主幹	(あいさつ)
事務局	本市では様々な機会をとらえまして、市の人権施策の取り組みを紹介させていただきまして、人権施策の推進に努めております。 議事に入ります前に、教育委員会人権教育室長より当市の人権施策についてご説明させていただきます。
人権教育室長	(人権施策について説明)
事務局	お時間いただきましてありがとうございました。人権教育室長は別の公務のためここで退席させていただきます。 それでは、本日の資料について確認をさせていただきます。 (資料確認) それでは続きまして出席者の紹介に参ります。昨年 11 月 6 日にすべての委員が改選されてございます。特に皆様に今日は自己紹介をお願いいたしたく存じます。
各委員	(自己紹介)
事務局	続きまして本市の職員の紹介をさせていただきます。 (職員紹介) 本日の次第に入る前に、本審議会の会長の選任を行いたいと思いま

発言者	発 言
	す。会長につきましては、条例の第 6 条第 1 項に委員の互選により定めると規定されてございます。選任にあたっては、委員の皆様からのご推薦をいただきたく存じますが、いかがでしょうか。
委員	大学でのご専門等これまでのご経験から、土屋委員にお願いするのが良いと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	ありがとうございます。会長に土屋委員を推す声がございました。皆様いかがでしょうか。
委員一同	異議なし。
事務局	ご異議ございませんようですので、推薦のとおり、土屋委員に会長をお願いしたいと存じます。 これより先は会長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	それではこれより先は、私の方で議事を進行させていただきます。 まず、会長職務代理者の指名をさせていただくことになります。条例第 6 条第 3 項の規定によりますと、会長職務代理者は会長があらかじめ指名することになっております。したがって、私から会長職務代理者になる委員を指名させていただくことにいたします。南部委員に職務代理をお願いしたいと思いますが、お引き受けいただけますでしょうか。
委員	お引き受けさせていただきます。
会長	ありがとうございます。それでは、職務代理者は南部委員をお願いいたします。 それでは議題に移りたいと思いますが、本日は請願がありませんので、次第に入らせていただきます。 本日は、事務局からの個別ケースの諮問ではなく、ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画の推進につきまして、現状と進捗状況、課題等について、事務局から説明をいただき、委員から忌憚のないご意見をいただきたいことですので、よろしくお願いいたします。 それではまず、次第 1 「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画の推進について」の (1) 小規模校の現状から、(4) 計画の情報発信について、

発言者	発 言
事務局	事務局からご説明をお願いいたします。
会長	(説明)
委員	事務局から (1) 小規模校の現状から (4) 計画の情報発信につきましてご説明いただきました。それでは、委員の皆様からご意見ご質問があればよろしくをお願いいたします。
会長	学校の統合については、私も同意見でいいことだと考えておるわけなんです、それに伴って住民の学区がありますよね。統合してもそれをそのままにしておくということだと思ふんですが、小学校の統合と同じようなことが地域の学区においても必要だと思ふんです。学区が小さいからやりにくいこともあれば、いいこともあろうかと思いますが、地域としての学区についての意見は全然、今の説明では出てきてないんです。地域からはどのような声を聞いているんですか。
事務局	事務局から答えることができる部分でお願いいたします。
事務局	直近で決まったのが千種区の例ということで、その時にいろいろ地域の方からご意見を伺っている体験から少しお答えしたいと思います。これまでの統合は何校かございますけれども、委員おっしゃるように、これまでは学校同士は統合して子どもの通学区域が一緒になりましたけれども、従来あった学区につきましては、それぞれの活動を続けているという状況でございます、今のところ学区が一緒になったというところはまだない状況でございます。 地域の方にご意見を伺っておりますと、やっぱりこれまで小学校を核にして、それぞれ学区の単位で独自の活動を皆様が積み重ねてきた状況があるということで、しばらく今の活動を続けたいなというお声が多かったように思います。 千種区以外にも、これまで西区ですとか中村区の方で、先に統合した学校がございますので、実際にその地域に伺って、今活動はどうですかということをお聞きして参りましたけれども、従来の通りうまく活動できていますというふうにおっしゃっていらして、今のところまだ学区の統合に向けて動きますよというようなお話は聞いておりません。 子どもの活動とあわせて学区同士が合意すれば一つになるという、それも一つの活動の幅を広げるという点かなとは思ふんですが、今の活動を続けていきたいという地域のお声の方が、今のところ強いのかなというふうに感じております。

発言者	発 言
委員	統合すると使う予算は経済的で少なくなるよね。2校を運営するよりも一本化の方が。学区もそれが言えるよね。地域におきまして、小さい学区になるといろんな面でいいこともあるんだけど、やっぱり役員の点だとか問題もあります。小さい学校が統合で大きくなって、運動会が紅白で分かれてやれるようになったという話がありましたが、そういうことが地域においても全く同じことが言えます。だから、やっぱり名古屋市では学校と学区というのは一緒だというのがいいんじゃないですか。地域においても、今、役員のなり手がいない時代なんです。予算的に見ても、役員のことを考えても、学区も統合されれば、そういう点でも助かると思って。名古屋市では学区も一つにする想定は考えていないわけですか。
事務局	おっしゃる通り、やはり学区の活動につきましても、だんだん縮小してきているというお声も実際に地域へ伺ってお話を聞く中ではお聞きします。子ども会ですとか、老人会ですとか、そういった活動になかなか手がいなくてというようなお話も聞いておりますので、例えば統合を契機に、学区が一つに大きくなって、より活性化することも有効な手段かと思います。
委員	田舎の方においても、郡部においても、町村が合併されて市ができたりしとるじゃないですか。それと同じじゃないですか。そういうことを考えないといかんと思うんですよね。そんな意見を言っている人はいないんですか。地域と学校とは一体となっていますから。小さな町になっちゃったんだったら、学校統合と合わせて、学区も一つにしていかなきゃまずいと思うよ。名古屋市としては、そういう姿勢で進めていかないといかんのじゃないですか。それはよくいっぺん考えてください。
会長	この会は、子どものことと言いますか、学校規模の問題をこれまで審議してきた部分があるんですが、これから、今のご意見のように地域づくりとの関係ということが、名古屋市もね、学校地域協働活動だとか、コミュニティスクールだとか、新しい動きが新しい教育基本計画等で動いてきたときに、また問題になってくるという課題になってくるということで、今、ご意見いただけたと思いますので、その辺は全く検討しないってわけじゃなくて、教育委員会全体としての課題だとして検討は進められていくんじゃないかなと思います。
事務局	どうもありがとうございます。関係部局とも連携してこういった声も上がっているということ認識し、今までは確かに学区同士が一緒になるということがないんですけども、これからまた変わってくると思うの

発言者	発 言
会長	で、そういったところも注視しながら進めていきたいと思います。 単純にはその学区を統合するという前提で動いていなかったんですけれども、ご意見としてそういうご意見も委員の方からあったということで、よろしくお願いいたします。 他いかがでしょうか。保護者代表というかP T Aの感想として何かあればぜひ今後のためにもなりますので、いかがでしょうか。
委員	私もまさにP T Aが笹島小中学校で統合を経験している本人なんです。先ほどの学区統合という意見も出たんですけど、もちろんそれもいいと思うんですけど、子どもたちにとっては、笹島小中学校ができたことで、六反学区と新明学区が今も残っているんですけど、六反の子は新明の行事にも参加できる、新明の子は六反の行事にも参加できるということで、そういう意味では子どもたちにとっては、学区まで統合しないほうがいいのかと。消防団なんかも、新明消防団、六反消防団というのが残ってしまっていて、そういう学区の名前が残るというのも子どもたちにとってはいいのかなというふうには思うんです。ただ、うちの笹島小中学校は統合してもまだ小中で9クラスしかない小規模校なんです。住民の方も、先ほどおっしゃられたように、役員の数が少ないとか、そういう問題は常に残っているので、やっぱりいろいろな視点から考えていったほうがいいのかと思います。今、実際に経験した身としては、学区がそれぞれ残っていて、子どもたちにいい影響があるのかなというふうに感じています。
会長	丸の内小学校のアンケート結果もありましたが、子どものアンケートとか、そのあたりはどうですか。アンケートで気になることはありましたでしょうか。
委員	アンケートを拝見して、変わってよかったって感じている子が多くて、丸の内小学校の児童の動画インタビューにもあるように、統合して子どもが実際によかったと話していたのはすごく印象的だったなと思っています。学校へ通うための距離は、どこまでいっても保護者としては心配ですし、間に大きな道路があったりするとちょっと心配は尽きないのかなと思うんですけども。アンケートでは「慣れたよ」という声も多くあって、仕方がないと言ってはどうしようもないんですけども仕方がない部分ではあるのかなと思っています。 ちょっと話が戻ってしまうかもしれないんですけども、自分が住んでいるところが、南陵小学校と桶狭間小学校という緑区の一帯で、選択学区というのを採用しているところでして、以前は完全に分か

発言者	発 言
	れていたけど、どちらか選択してくださいというふうに言われている、まさにそこに通わせているんですけども、そうするとやっぱり地域の学区と自分の家の子どもが通う小学校は違うというのを経験しております。夫の両親からすると混乱しているのかなというのは感じています。うちの子たちはここの学区だけど、ここの学校に通っている、私たちの活動とはちょっと違っているというのはみなさん感じていらっしゃる。だから、その役員のなり手だったり予算だったりということで学区も合併するというのを選ばれたほうがいいという方々もいらっしゃると思いますし、先ほどおっしゃっていたように、別々でまだちょっとしばらくやりたいという方がいらっしゃるのもすごく理解できるなと思って伺っております。
会長	そのあたりは事務局でもいろんな意見を聞きながら進められているということでよろしいでしょうか。その地域の状況とかですね、ご意見も含めてということですけど。
事務局	おっしゃるとおりです。両方のご意見があります。学区が一緒になった方がいいという意見もありますし、やはりもともと分かれていたのだからそのままいきたいという意見もあります。なかには協力してお祭りを一緒にやろうとかかですね。そういうふうなことも将来的にはできるかなというような発言もあつたりしますので、部分的な連携とかそういうところから徐々に、というのが現実的なところなのかなと実務では感じております。
会長	学区の問題を、やっぱりずいぶん気にされているということで委員の方からのご意見もご参考にいただければと思います。他いかがでしょうか。
委員	丸の内小学校のアンケートの紹介で、教職員のアンケートの結果がなかったもので、またどこかで知れたらいいなと思っていましたが。 統廃合に該当する教職員の人からは、すごく荷物等の運搬が負担になっているという声が多くて、それは丸の内小学校の時もそうですし現在進んでいるたかしま小学校もそうなんです、どうしても細かい荷物の整理と運搬がすごく多岐にわたっていて負担になっています。一学級分の教科書だけを見ても、重ねると身長ぐらいの量になったりして、それを運ぶだけでもすごく重労働なんです。それがどうしてもこの時期に忙しくなると、その分、子どもの授業等に充てる時間等に影響が出てしまうことがすごく心配だなと思っています。なのでぜひ、シンプルに運搬する業者さんの数を増やしていただくとか、あとはこの日にどれぐらい

発言者	発 言
会長 事務局 会長 委員	の荷物を運ぶようにするとかというマネジメントする人の部分も充実をして欲しいなと思っています。子どもの学びの質を下げないためにも、やはり統廃合がよくないという印象を保護者や子ども達も思われないうようにするためにも、教育の質を低下させないためにもぜひその部分の充実を今後図って欲しいなと思っています。 よろしいですか。 教職員のアンケート結果については、報告書の本編の方に載せております。委員の皆様方にはお手元に印刷したコピーもありますのでまたご覧いただければと思います。 アンケート回答には、今委員がおっしゃっていただいたように、統合事務に関する業務量の増が非常に負担になっているという声が、幾つもありました。丸の内小学校が統合第一号であったということもあり、「統合前から職員を多く配置して欲しい」とか、「学校判断でいろいろやらなければいけないことが多すぎて悩むことが多かったので、指示書等があればよかったと思う」といった声があがっております。我々はそういったこともしっかりと受けとめて、例えば指示書とかこういったことをやる必要があるといった各校に共通することをまとめた資料を今年度あらたに作成しております。 また、ご指摘のあった、「引っ越しの業務負担が非常に辛い」ということで「教員に負担がかからないように、業者委託して欲しい」というような具体的なご意見をいただいております。統合によることで、本来の教育業務以外のことに忙殺されることがないように我々としてもしっかりと予算を確保して臨んでいきたいと思っております。 どうしても時期が集中するんですよね。授業をやっている時には動かせないとなると、休みの期間とか長期休業中とかで引っ越し作業をしなければならない。その時の急な対応が難しかったのが、今おっしゃられたようにマニュアル化してきている部分があるのでチェックリスト等が整備されて、それを踏まえて、事前に動けるところを動き始めるという形で、事務局の方でもサポートができるというか、学校に負担がないようにというところで動き始めているということでございますので、また引き続きということではよろしいでしょうかね。 私の勤める勤務校も小規模校でして、今、私どもの学校では子どもたちが少ないのでそれに合わせた行事として、集団で行うことで教育効果を上げるような運動会のやり方とか、小規模校ならではの縦割り活動などの行事も工夫をして取り組んでおります。それから先ほど紹介のあつ

発言者	発言
	た丸の内小学校の児童のインタビューで「運動会で赤と白の勝敗を決めるようになって楽しかった」という生の声を聞けたんですけれども、2クラスある学年も少ないので、クラス対抗で切磋琢磨をするような教育活動に制約がかかるなあという実情は抱えております。 校長としては、今現在、教科担任制を取り入れるなどして、一つの学級に関わる教職員を増やしていくということで教育活動の中で工夫をしているところです。 先ほど、同じ中学校ブロックではない小学校同士の千種区の統合ケースの説明がありました。うちの今の勤務校も中学校が遠いものですから、「中学校はそこに通うことになる」という説明を引っ越してきた子にする時に「こんなに距離があるところに通うんですか」ということをおっしゃられるんです。「学区というのが決まっていて、そこに通うことになります」とお話をさせていただくと、「もっと近いところがあるのに」とか、外国から来てくれたお友達なんかは「どうして選べないんですか」というようなこともご質問いただくことがあるので、今後の未来の子どもたちが、今の学区にこだわって、ここじゃないと駄目だよということではなくて、これからまた教育委員会のみなさんが考えていただくときに、ここに通うのが一番ベストなのかとか、今までの学区というのはもちろん大事だと思うんですけれども、そういったところを視野に入れながら、子どもたちがどれぐらいの人数だと良好な教育環境を築けるのかということも含めて、また話し合いの方を進めていく必要があるのかなというのを強く感じました。
事務局	統合という手段だけではなくて通学区域の変更なども、適正な規模を目指すための手段として考えておりますので、そういったことも配慮しながら、色々な組み合わせで一番いい方法を見つけていきたいというふうに考えております。
会長	この審議会が、小規模校統合審議会じゃなくて、子どもいきいき学校づくりの審議会ということになっているということは、今事務局からも説明があったように、いろんな要素を組み合わせながらベストなものを見つけていこうという、そういう動きをしているということで我々も理解して審議を続けていきたいと思っております。そういうイメージですよ。学校づくりだということと。
事務局	おっしゃるとおりです。
会長	他いかがでしょうか。今までのご説明などにご質問やご意見があれば。またあとで次終わってから、取り組み中のケースの話がありますの

発言者	発 言
	で、その後でまた戻っていただいても構いませんので、一旦ここで次のご説明に移らせていただいてよろしいでしょうか。
委員	はい。
会長	(5) 取り組み中のケースにつきましてのご説明お願いいたします。
事務局	(説明)
会長	ありがとうございました。それではただいま説明のありました (5) 取り組み中のケースにつきまして、委員からご意見ご質問あればよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。 確認ですけど参考資料はもう地域に配られた資料ということですね。
事務局	はい。
会長	よろしいでしょうか。それでは、他にないようでございますので、次に次第2のナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画推進の課題についてに移りたいと思います。事務局からご説明お願いいたします。
事務局	(説明)
会長	ご意見を賜りたいということで説明がありましたので、委員の皆様いかがでしょうか。合意形成の部分でということです。確認ですけど個別プラン作成の一番最初の部分においても、地域との対話が、もっとスムーズにとか、もっとうまくいくようにという部分でのお悩みということでしょうか。
事務局	そうですね。そこが大きな面としてあります。また、ステップ3のところの説明も、説明会形式で今はやっておりますが、そこでもただ一方的に説明して、質問を受けて終わりということでそれだけでいいのかということも問題意識としてございますので、そこも含めて、地域との関わりということでお願いしたいと思います。
会長	いかがでしょうか。
委員	自分が住む地域も幅下小学校、江西小学校、那古野小学校が一つになってなごや小学校が平成 29 年から開校しております。その時もそうかなと思うんですけども、今おっしゃっていただいたように、一方的に

発言者	発 言
委員	こういうふうにしますねというような案を語っていただくだけよりも、やっぱり地域の人と対話をするような、そういうのも1回だけではなくて何回かしていただけると、どんな意見、どんな心配を持っているかというのは、住んでいる世代の方々によって違ってくるのかなあということもすごく感じております。 防災の拠点というところもそうだと思うんですけども、地域でスポーツをしている子どもたちにとってのお母さんたち世代の方もそうだと思いますし、先ほど火事の時なんかの消防団なんかも、うちも幅下学区消防団とかそのまま残っているようなんですが、そういったものも含めても、いろんな視点で、統合すると子どもたちにとっては教育環境が良くなるかもしれないけれども、住んでいる人たちにとってはどんな変化が起きて、どんなことがよくなって、ここをちょっと工夫しないといけないねというところは必ず出てくるのかなというふうに思っております。 私も夫の親は子どもたちが増えるということで喜んで、足が動く時期は、うちの母も江西学区とかちょっと遠い子たちが来る交差点に立って、子どもたちを朝迎えたり、さようならと見送るのを、すごく生きがいにしていました。今ちょっと足が悪くなって外へは出ていないんですけども。なので、子どもたちがちょっと今までより長い距離を歩くということが出てくると思いますので、そういったところを誰がどのような時間帯で支えることができるのかだとか、そういったことも含めて、いろんな視点からのファシリテーションというふうに言っていただきましたが、対話するような形での話し合いを持っていたけるといろんな視点で意見をいただけるのではないかなあというふうに思います。 合意形成ということで申し上げますと、例えば学校の統廃合というような話というのは、社会の構造的な問題から発生している個別課題ですよ。少子高齢化が進んでいったときに起きる教育現場の一つの課題なんです。実はそういう課題は地域にはいっぱいあるんですよ。実はそれは結構連鎖しているわけです。残念ながら、それが個別課題になって初めてお役所の各部署が対応することになるのですが、本来であれば、そもそも地域全体にどんな課題があって、各々の課題がどう繋がり合っているかということを、行政関係者や地域関係者が認識するところから始まらないと、合意形成はなかなか難しいだろうと思います。 つまり、個別課題になってしまうと、そこである種の損得勘定が発生するので、例えば学区なら学区、もしくは複数の学区を少し俯瞰的に見るような機会が定期的にあると、今多分ないのだと思いますけれども、必要なだろうと思います。 そういう意味で、区役所なのかもしれませんが、区の中のあるエリア

発言者	発 言
会長	を考える主体がリードして、地域の課題を俯瞰的に見て議論する機会を作っていただくのが必要かと思います。そう考えると、名古屋市だとどこがやるべきなのかというのが問題になると思いますが、区役所かもしれませんし、スポーツ市民局なのかもしれませんが、そこが地域の課題を俯瞰的に見て、その中で学校の統廃合をどう考えるかとか、子どもの教育をどう考えるかとか、そういう取り組みが最初に行われるべきだと思います。 ワークショップというのは、その中で採用する手法の一つであって、ワークショップを行うと合意形成ができるというのはちょっと本末転倒だったり、幻想だと思うんですね。順番が違うというか。そのことは私はとても大事だと思います。だから、言い方を変えると教育委員会だけではもう多分解けない、もしくはできないことだと思うんですね、合意形成って。ですので、ある種の地域、大きく言えばまちづくりというものをどういうふうに考えるかというようなところから議論し、意見交換する。具体的な事業が動く前の段階で、俯瞰的な議論ができるプラットフォームがどこかでできるといいですね。 名古屋市にそういうまちづくりデザインというか、地域デザイナーみたいなシステムとか、部局とかあるのでしょうか。委員は今ないんじゃないかという前提でお話をされたと思うんですけども、どうなんですかね。 地域をどうしましょうかという中に学校の話がどう関わるかということになってくる。今逆になっているから大変なんですよね、きっと。学校の話をしたら色々な地域の話がそこに出てきて、それを教育委員会が一つで対応できるかという問題で、かなりご苦労されている部分があるのかなと推察しているんですけど。
事務局	委員がおっしゃっていただいた社会の構造的課題が個別課題として現れているんだというのは全くそのとおりだなというのを感じたところです。 今お尋ねのあった地域の課題を考えるという意味では、各区役所で区政運営方針というものを定める際に、色々な方の意見であったりとかそういうことを聞いたりして、そういった運営方針を作り上げていくというプロセスがあります。ただその中で、構造的課題についてはもちろん数値的なものとして統計的にこうなっているという背景では触れているんですけども、こういった構造的課題が繋がっているというところまで深めるところまではできているかと言えばなかなかそこまでは深められていないのかもしれないなというところがあります。 私どもの部署と区役所との関わりということで言いますと、もちろん

発言者	発 言
会長	学校の方からも、審議会の中では、小規模校の問題の一つとしては、先生の数が少ない中でたくさんの業務をこなす必要があるということもあり、学校の一つの動かし方として適正規模っていいですか、ある程度の規模が必要だということで、このいきいき学校づくりもスタートしているというところがあるんですけども。 そのあたりの学校側からの今後の審議の進め方についてのアイデアも一つあればと思ったりはするんですけども、地域との関係も含めて、対話が難しいという話も、今出ていますが、事務局から、どうやって対話を進めていけばいいのかについてご意見があればということですけど何か、どんな形でも構いませんけれども、何かあればいかかでしょうか。
委員	ちょっと答えになるかどうかかわからないんですけども、今話題になっていた統廃合によって、財源等を確保するというのは、それが目的のすべてではないと思うんですけども、ある程度はやっぱりその教育の財源が浮いたことを、改めて学校に人を配置する予算に回せれば、子どもたちにとってすごくいい効果もあり得るのかなと思うので、すべてを否定はしなくてもいいのかなとは考えます。 やっぱりその跡地であったり財源等をどう活用するかというところに自分は焦点を当てて、跡地の活用が子どもたち、例えば教育支援、教育相談をする場所だとか、何か教育に関わるような公共の施設に変えるだとかというところで街自体を活性化させたり、子育てとかが、すごく名古屋は良い街なんだってアピールになれば、今後もっと大きな課題の解決に繋がるのかなと思うので、そういった活用の仕方もアピールしつつ、みなさんにその理解をしていただければ、長期的に見て何かいい方向に行くんじゃないのかなと思います。 小規模校だと先生たち負担も大きいところもあったりするので、統廃合してある程度先生の人数が増えたと、行事等の準備等にもいろんな先生が関わることができて、先ほど子どもたちや保護者のアンケートがありましたけど、すごく活動が充実していいという声が今後聞けるようになるといいなというふうに感じています。
会長	事務局にちょっと確認ですけども、保護者の方とか学校側との対話というのは、もともとちゃんとベースにあるということですのでよろしいんでしょうか。そのあたりの進め方の部分でのコミュニケーションについてご説明いただくとみなさんリアリティっていいですか、わかってくるかと思いますので。
事務局	実際の進め方の部分で申しますと、まず個別の学校へのヒアリングと

発言者	発 言
	いうものが一番最初にあります。現在学校運営で困っていることはないかとか、どういったことで今困りごとが発生しているかとかです。学校の事情はやはりいろいろあります。場所によっては地理的な条件でこうなっているので、ずっと小規模校ですが、さほど困っていないというようなところでも実際訪問すると聞こえてきたりもします。 その上で、保護者は児童の保護者という当事者ですので、保護者にもこういったことを教育委員会は考えているということをご説明します。私たちがまずお話しするのはPTAの代表者の方たちです。PTAの方と相談をした上で、全校の保護者にもこういったことを考えていますということを出し、意見をもらうということを必ずステップとして踏んでいます。
会長	地域に出す文書は、教育委員会の名前で出すんですか。校長さんの名前ですがPTAさん、会長さん、連名なのかその辺はどうなんですか。
事務局	すべて教育委員会の名前で出しております。
会長	教育委員会から来た提案という形ですか、すべて。その前にPTAの方とも話をしながらということですか。
事務局	そうです。我々が気が付いていないこととかもあるかもしれませんので、いろいろと考えをまとめるにあたってヒアリング調査をする中で、ご意見を伺って、そのうえでつくって出すというようなことをしております。
会長	そういう流れの中でということでございますけれども、どうでしょうか。進め方をもう少しこうするともっとうまく円滑に進むんではないかとか或いはこういうアイデアがあるんじゃないかというのがちょっとあればということですよ。
事務局	補足させていただいてよろしいですか。進め方としまして学校の現状を把握し、PTAの方にも保護者の方にも、様子をお伺いするということもあるんですが、並行しましてやはり地域のことも、先ほど学校は地域の活動拠点になっているんですとか、子どもたちに地域の方も深く関わっていただいたことありますので、保護者の方のご意見を確認するにあわせて並行して、地域の方にも地域の現状がどうなのか、子どもたちの関わりはどうかとか、実際の地域の目から見た子どもの様子がどうかとかということも、ステップ1の段階でお伺いしながら、参考にさせていただくということもあわせてやっているということです。

発言者	発 言
委員	今日全員のお話も含めまして、やはり議論になっているのは、学校統廃合の問題は、まちづくりの問題だということなんですよね。以前この会議の何年か前の会議の時にも発言させていただいたんですけども、やはりこれから 2040 年ぐらいまでを一つの目安として、名古屋市としてもまちづくりがどうなのかということを併せて検討しないと、教育委員会だけで、先ほどいろいろご指摘もありましたように、ちょっと抱えられない問題だと思います。他の部署とも一緒になって、2040 年ぐらいをめどに考えていく必要があるんだと思います。そのうえで、個別計画になると学校に連絡を取ったりであるとか、保護者に説明をしたりとかいうことはもちろん教育委員会の仕事ということになってきますけれども、これからのあり方を考えるのは、教育委員会だけではなくて名古屋市全体の話になってくるので、どうしても縦割り行政の問題というのは、ある意味組織である以上存在するわけですけども、やはりちょっと横串しで考えていかないと対応できない形になるかなと思います。 最初のスライドでご説明いただいたように、本来であるとステップ 3 で初めて具体的な地域の方と関わるのを、前倒してステップ 1 の段階から話をしているというご説明でしたけど、それはとても大事なことでありまして、いきなり話を出されては、地域の方も保護者も含めて大変不安に思うでしょうし、やはり早い段階で検討に入るところから協議していくということが大事なのかなと思います。 先ほどご提案があったようにいろんなワークショップみたいな形で議論していくというのも一つのツールとしてはありうると思いますけれども、そういう場で何か解決できる問題ではないので、とにかく地域に関わりのある組織と話をして、感触というか意見を伺うという、そういう地道なやり方しかなかなかないんじゃないかなと思いますながらお話を聞いていました。 今日の前半出ていたようにやっぱり地域によって事情がかなり違って、地域自体少し大きなまとまりにした方がいいんじゃないかという地域もあれば、やっぱり個別に頑張っていきたいという担い手もある、世代交代もうまく継承できている地域もあるかと思うんですよね。一律に学校が統廃合したら地域も合併という事情が当てはまらないところもあるかと思うので、やはり個別に考えていく必要があって、それは教育委員会だけの仕事ではないので、市の全体計画との関わりでこの問題も位置付けていくのと、あとやっぱり教育委員会さんとしては、今どこが一番緊急度が高いのかということと、いろんな地域的な問題も見て、協議できそうなところを多分探っておられるとは思っています。 それとあわせて市としてのビジョンがやっぱりとても大事になって

発言者	発 言
会長	きている。これは名古屋市でさえそういう状況なんですよね。他の地域や国全体で非常に切迫した状況になっているのは、過疎地域はもちろんのことですね、この名古屋のような大きなところで、こういう問題が目の前に迫ってきていて、それが 10 年ぐらい前に想定していたよりもはるかに速い速度で進んできている。これは全国が抱えている問題でもあるんですが、国レベルで審議をした時に、この問題を国レベルで結論が出ないということで、ある意味、地方に丸投げされたような状態ではあるんですけども、そこのところは、やはり地方の自分事として考えていかないといけない問題だと思います。 まずは名古屋市としてのビジョンというか、計画は作ってあると思うんですよ、大まかな。そこをもう少し具体的に 2040 年ぐらいまでどうしていくのかということを教育委員会の立場から発言していったって考えていくことが必要なのかなと思います。とにかくこれは学校だけの問題、教育だけの問題じゃなくて、地域のあり方というか、まちづくりの問題になるので、そこのところを少し意識していただければいいのかなと思います。 全国的にもこうやったらうまくいくみたいな例はほとんどなくて、どこもすごい苦しみながら、例えば小中の話をしてはいますけれども、高校の統廃合の問題もどこの県も切羽詰まった状況になっていて、私もそういうのに関わっているんですけども、自分たちで丁寧にいろんなご意見を聞きながら合意していくというぐらいしか、なかなかこれをやるとうまくいくというのは正解がないような問いになってきていますので、ちょっとそのことだけ付け加えさせていただきました。 ありがとうございます。共通してご意見を出していただいているように、学校が対応できる問題だけではないというか、ほとんどがそうですね。通学路に信号機つくってくれてと言われても学校がしてくれるわけじゃないし、そうすると県だとか市との対応も必要になってくるだろうし、跡地をどうするかという問題も含めると、街をどうするかという問題になってくると思います。ここに出てきているご意見で共通していることは、今までやってきたこの活動から出てきた一つの答えになっていると思うので、それをどう市の方で分担しながらというか、協働しながら解決できるかということが、この審議会でも意見として出されたということでお伝えしていただければよいと思います。 一部の局だけの問題ではないので、それを全体のコーディネートはどう進めていくかという問題と繋がってきていると。駄目だという意味でのご意見ではなくて望ましい学校規模の確保を進めていくという前提のご意見ではあるというふうに思いますので、ぜひそういう意味で参考にしていただくということによろしいでしょうか。

発言者	発 言
事務局	委員からいただいたご意見を伺って、関係する部署との地道な話し合いの機会を積み重ねることが大事だと認識しました。住民と話し合いをして、今のまちづくりの話でいうとまちづくりの関連部署に、我々が吸い上げてきたこういった意見、単に学校統合すればそれで済む話じゃないということを伝えながら、それぞれが持っている課題意識をお互いに認識し合わない、全体のコーディネートをする組織をつくろうと言ってもできないものですから。そういったところも今までできていなかったところがありますのでそういったことを意識的に取り組む必要があるかなということを、気づかせていただきました。ありがとうございます。
会長	ワークショップ型もやられてフィードバックされるといいんじゃないでしょうか。具体的にこういうふうにやったらこうだったってことがあればですね、ぜひ進めていただいてもいいんじゃないかと思います。
事務局	むしろ市の内部の異なる部署との話し合いの場にファシリテーターが入ってやるといいのではないかと思います。
会長	今日の話からするとそれがまず必要だなということですね。ありがとうございます。よろしいでしょうか。それではその他の方に移ってよろしいでしょうか。今日の次第の中で、3 その他について、事務局の方からありますか。
事務局	事務局からはありません。
会長	その他ないですね。委員の皆様からその他で何か確認しておきたいこと、あるいはご意見があればよろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。特にないようですので、以上をもちまして名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会を終了いたします。皆様ありがとうございました。それでは事務局の方に進行をお返しいたします。
事務局	議事ご進行していただきましてありがとうございました。 委員のみなさんは、本日はお忙しい中、長時間にわたり熱心にご審議いただきましてありがとうございました。 これで終了となりますので、ご準備できました方から気を付けてお帰りいただければと思います。本当にありがとうございました。 傍聴者の方もご退室をお願いいたします。